



2019年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月13日

上場会社名 グリーンランドリゾート株式会社
 コード番号 9656 URL <http://www.greenland.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理室長
 定時株主総会開催予定日 2020年3月27日
 有価証券報告書提出予定日 2020年3月27日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 福

(氏名) 江里口俊文
 (氏名) 佐伯賢二
 配当支払開始予定日

TEL 0968-66-2111
 2020年3月30日

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期の連結業績(2019年1月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期	8,359	7.0	684	21.2	691	26.2	386	28.3
2018年12月期	7,810	1.9	564	26.9	548	29.8	301	12.6

(注) 包括利益 2019年12月期 404百万円 (75.4%) 2018年12月期 230百万円 (△22.2%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2019年12月期	37.43	—	3.5	3.2	8.2
2018年12月期	29.17	—	2.8	2.5	7.2

(参考) 持分法投資損益 2019年12月期 一百万円 2018年12月期 一百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期	21,313	11,279	52.9	1,091.16
2018年12月期	21,615	11,020	51.0	1,066.06

(参考) 自己資本 2019年12月期 11,279百万円 2018年12月期 11,020百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2019年12月期	1,109	△321	△757	350
2018年12月期	827	△401	△394	321

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2018年12月期	—	5.00	—	7.00	12.00	124	41.1	1.1
2019年12月期	—	7.00	—	7.00	14.00	144	37.4	1.3
2020年12月期(予想)	—	5.00	—	6.00	11.00		40.6	

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日～2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,800	△6.7	480	△29.9	460	△33.5	280	△27.6	27.09

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2019年12月期	10,346,683 株	2018年12月期	10,346,683 株
2019年12月期	9,260 株	2018年12月期	9,253 株
2019年12月期	10,337,423 株	2018年12月期	10,337,430 株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績に見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想ご利用に当たっての注意事項については、[添付資料] 5ページ「(1)経営成績に関する分析 2)次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 経営成績に関する分析	2
(2) 財政状態に関する分析	7
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	8
2. 企業集団の状況	9
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	11
4. 連結財務諸表及び主な注記	12
(1) 連結貸借対照表	12
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	14
連結損益計算書	14
連結包括利益計算書	15
(3) 連結株主資本等変動計算書	16
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	18
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	19
(継続企業の前提に関する注記)	19
(セグメント情報)	19
(1株当たり情報)	21
(重要な後発事象)	21
5. その他	22

1. 経営成績等の概況

(1) 経営成績に関する分析

1) 当期の経営成績

当連結会計年度の当社グループにおきましては、新元号制定に伴い過去最長の10連休となりましたゴールデンウィークが大きな追い風となり、各施設での集客に向けた多様な取り組みも奏功し、九州の遊園地をはじめ、3ゴルフ場ならびに北海道の遊園地において、その利用者数は増加いたしました。

また、土木・建設資材事業につきましても、バイオマス火力発電所への燃料投入業務の受託が堅調だったことに加え、客土用土の販売が好調に推移し、売上を大きく伸ばしました。

以上により、当連結会計年度の業績につきましては、売上高8,359,645千円（前期比549,117千円増）、営業利益684,457千円（前期比119,665千円増）、経常利益691,557千円（前期比143,548千円増）、親会社株主に帰属する当期純利益は386,972千円（前期比85,399千円増）となりました。

	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額 (千円)	増減率 (%)
売上高	8,359,645	7,810,527	549,117	7.0
営業利益	684,457	564,791	119,665	21.2
経常利益	691,557	548,009	143,548	26.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	386,972	301,572	85,399	28.3

次に、事業の種類別セグメントの概況をご報告申し上げます。

(遊園地事業)

まず、九州の『グリーンランド』におきましては、1月の冬休み期間と週末毎の夜間営業に合わせ、「光のファンタジー」と題して、園内を色鮮やかなイルミネーションで演出いたしました。今回は、桜並木に電飾を施した「さくらの散歩道」を新たに誕生させるなど、園内100カ所以上のイルミネーションスポットをご用意し、多くのお客様にお楽しみいただきました。

また、2月には、約500個のLEDスカイランタンを上空一面に浮かべるお客様参加型のイベント「Sky Lantern Star Night Dream (スカイランタンスターナイトドリーム)」を実施し、会場全員が一体となって、幻想的な夜夜を楽しみました。

【春催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・おしりたんてい ププっとかいけつ！なぞときフェスティバル ・仮面ライダージオウ バトルステージ ・GReeeeN LAND (音楽グループ「GReeeeN」とのコラボイベント) ・HANABI フェスティバル
【夏催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲゲゲの鬼太郎 ゲゲゲの森で遊ぼう！！ ・ガンバレルーヤ×グリーンランド ・仮面ライダージオウ スペシャルショー ・仮面ライダージオウ 出演俳優トークショー ・さのよいファイヤーカーニバル2019
【秋催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・しまじろうプレイパーク ・タマホームスペシャル2019 第16回「花火物語」 ・グリーンランドハロウィン&ハロウィンスペシャル花火 ・プリキュアオールスターズがやってくる
【冬催事】	<ul style="list-style-type: none"> ・イルミネーション「ワンダーイルミネーション」 ・「ルパン三世 THE FIRST」タイアップイベント ・オーロライリュージョン ・グリーンランドカウントダウンパーティー2020

春には、幅広い層の集客を図り、異なるメインターゲットを意識して3大イベントを開催いたしました。

まず一つは、絵本シリーズを中心に大人気となった「おしりたんてい」のパピリオンとして、「おしりたんてい ププっとかいけつ！なぞときフェスティバル」を開催いたしました。会場では、絵本やアニメでお馴染みの世界観を体感できる内容が大好評を博し、関連グッズの販売も非常に盛況となりました。

もう一つは、男児を中心に人気の高い仮面ライダージオウが主役の「仮面ライダージオウ バトルステージ」を開催し、全面リニューアルした屋外ステージを所狭しと繰り広げられる大迫力のバイクスタントやバトルアクションで、会場は大歓声に包まれました。

さらに、数々の大ヒット曲により、若者を中心に幅広い世代から愛されるアーティスト「GReeeeN」とのコラボレーションイベント「GReeeeNLAND」を開催し、オリジナルテーマソング「ミドリイロ」を書き下ろしいただき、ミュージックビデオも遊園地を舞台に撮影されました。また、特設のフォトスポットやアトラクション乗車中にはGReeeeNメンバーからのスペシャルメッセージも流れるという、まさにグリーンランドが“ミドリイロ”に染まるイベントで、幅広いファン層に訴求することができました。

また、7月1日より、人気お笑い芸人「ガンバレルーヤ」とのコラボレーションイベントを開催し、園内を多くの面白スポットで演出したほか、夏のメインイベントとして、九州初となるイベント「ゲゲゲの鬼太郎 ゲゲゲの森であそぼう!!」を開催いたしました。

加えて、秋には、未就学児ファミリーをメインターゲットとして、大人気キャラクター「しまじろう」の体験型パビリオン「しまじろうプレイパーク」を開催したほか、ハロウィンイベントや年末の「カウントダウンパーティ2020」など、1年間を通じて何度でも来園したくなるような、多彩なイベント開催に取り組んでまいりました。

アトラクションにおいては、春には、「スーパーシューティングライド モンスターヒーローズ」、「ウエスタン列車 悪モンバスターズ」、そして「レーザーシューティング」を3大シューティングアトラクションとしてリニューアルオープンし、夏には、日本初登場となる新規アトラクション「グッジョブ大作戦」を導入したほか、「ウォーターパーク(プール)」では、8月10日から8月18日までの期間、「ナイトプール」と題して初めての夜間営業を展開いたしました。

そのほか、継続的なアトラクションの刷新や多彩なイルミネーションスポットの拡充等の魅力増大施策に向け、9月14日より入園料金ならびにアトラクションフリーパス料金の値上げを実施し、一層の収益基盤の強化を図りました。

このような様々な取り組みに加え、2018年秋に全国公開されました、グリーンランドを舞台とした映画「オズランド 笑顔の魔法おしえます。」に喚起された多方面からのご来園者もあり、また、営業強化による各種新規団体や修学旅行団体の獲得が好調に推移し、利用者数は、前期比65,354人増加の913,404人、売上高は前期比390,782千円増加の3,873,139千円となりました。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、4月のオープンより「仮面ライダージオウ」、「スター☆トゥインクルプリキュア」、「騎士竜戦隊リュウソウジャー」など、人気の最新キャラクターショーを開催し、子どもを持つファミリー層をメインターゲットとして集客を図りました。また、10連休となりましたゴールデンウィーク期間中には、「おしりたんてい」のショーなど話題性の高いイベントを開催し、園内は大いに賑わいました。

また、北海道最大級の野外音楽フェス「JOIN ALIVE (ジョインアライブ) 2019」が、7月13日から2日間に亘り開催され、10回目の節目を迎えた今回は、多くの人気アーティストの出演により約40,000人の観客動員数となり、ライブ会場は、例年以上の盛り上がりを見せました。

また、7月には「いわみざわ彩花まつり花火大会」、8月には「いわみざわ公園花火大会」がそれぞれ開催され、遊園地也大いに賑わいました。

そのほか、8月10日から8月18日までの期間において、「フリースタイルモトクロス」を開催し、日本トップクラスのライダーの圧巻のパフォーマンスに、会場は大歓声に包まれました。

秋には、「ワンワンとあそぼうショー」など人気の高いキャラクターイベントを開催し、3連休などの集客の山場を更に盛り上げました。

『北海道グリーンランドホワイトパーク(スキー場)』におきましては、1月はインバウンド客ならびに自衛隊訓練の利用件数増加や客単価増加が見られましたものの、12月に入ってから雪不足やそれに伴う営業日の減少が影響し、利用者数ならびに売上高は低調に推移いたしました。

この結果、北海道の遊園地ならびにスキー場を合わせた利用者数は、前期比17,205人増加の227,921人となり、売上高は前期比89,984千円増加の765,754千円となりました。

以上の結果、利用者数は前期比82,559人増加の1,141,325人となり、売上高は前期比480,766千円増加の4,638,894千円、セグメント利益につきましては前期比119,905千円増加の738,983千円となりました。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、お客様目線に立った快適なプレー環境の整備に注力し、きめ細やかな樹木の剪定・伐採やカート道路の補修のほか、新たにレディースティを設置するなど、3ゴルフ場各々の特色を活かしながら、一層の魅力向上に努めました。

また、韓国人ゴルファーの利用促進ならびに新規会員権販売に向け、新たな韓国人スタッフを加え、韓国内のゴルフツアー造成会社との連携強化を推進いたしました。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』におきましては、多彩な機能を持つ最新鋭のナビゲーションシステムをPRすることで、オープンコンペ参加者獲得のほか、慶事コンペなど各種コンペの利用拡大に努めました。

また、若年層ゴルファーの取り込みを図り、シニア層ゴルファーとのペアマッチコンペやゴルフ場スタッフがお客様と対戦する「スタッフが挑戦コンペ」を新たに開催したほか、友の会会員拡大に取り組むなど、パブリックゴルフ場の強みを活かした営業展開に注力いたしました。

また、施設面においては、ベントグリーンの拡張のほか、ゴルフ場のフロントカウンターの改装など、プレーヤーの利便性ならびに快適性向上に努めました。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースにおきましては、九州ゴルフ連盟主催の各種競技大会の開催に伴い、練習ラウンド客の取り込み注力したほか、ビジター客の獲得に向け、各種団体向けセールスやWEB会員拡大に努めました。

また、快適なナビゲーションシステムのPRに加え、『大牟田ゴルフ場』ではセルフプレーでのゴルフカートの一部コース内への乗り入れにも取り組むなど、より快適なプレー環境を提供することで、利用者層の拡大に努めました。

更に、メンバー会員に向けた新たなサービスとして、ポイントカードシステムを導入し、両メンバーシップコースの相互利用を含めた会員の利用促進を図りました。

以上の結果、3ゴルフ場を合わせた利用者数は前期比2,499人増加の132,930人となり、売上高は前期比27,117千円増加の994,876千円、セグメント利益につきましては、前期比20,798千円増加の41,864千円となりました。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』では、グリーンランドリゾートのオフィシャルホテルとしての機能性向上と合わせ、確固たるブランド力の確立に注力し、更なるリピーターの獲得を図りました。

『ホテルブランカ』におきましては、好調なネット予約による客室稼働率向上に加え、遊園地やゴルフ場に隣接する立地を活かし、各施設利用を目的としたファミリー客や団体客を中心に集客を図りました。また、新たに客室にテレビモニターを利用したインフォメーションシステムを導入したほか、客室やトイレの改装、中庭の景観整備等を鋭意取り進めて利用者の満足度向上に努めました。

また、夏のバーベキューとともに好評な秋・冬の鍋バイキングでは、新たな食材を取り入れるなど、サービス拡充にも趣向を凝らし、地元客を中心に多くのリピーターを獲得いたしました。

そのほか、エレベーターの新設により館内移動の利便性を高め、法事など各種宴会場利用客の拡大や屋上テラス「シエロガーデン」の利用促進を図りました。

『ホテルヴェルデ』におきましては、新たに「仮面ライダージオウルーム」を造成したほか、大観覧車を望むコロッセオ広場の景観整備を行うなど、遊園地のオフィシャルホテルとしての特色を打ち出して、ファミリー層を中心に訴求いたしました。

また、夏休み期間においては、新たに、遊園地2日間の入園無料ならびにプール1日入場無料を宿泊特典として打ち出して集客拡大に努め、秋以降につきましても、遊園地利用時の優位性を前面にアピールし、1泊2食付プランを主力とした予約獲得に努めることで、インバウンド客の減少を売上面でカバーいたしました。

また、好評なタラバガニ&ステーキバイキングや地酒の会ならびにプレミアムビール祭りなど、近隣他施設と差別化した飲食イベントを定期的に開催し、話題性の喚起とともに安定した顧客獲得に努めました。

以上のような取り組みを鋭意行いましたものの、秋以降のインバウンド客の減少等も影響し、『ホテルブランカ』及び『ホテルヴェルデ』を合わせた宿泊者数は前期比3,934人減少の67,489人となり、また、婚礼獲得数の減少等で特に宴会部門の落ち込みが目立ち、売上高は前期比49,899千円減少の1,373,893千円となりました。

北海道の『ホテルサンブラザ』におきましては、遊園地やスキー場など多様なレジャー施設との連携の強さを最大限に打ち出して、ファミリー層、インバウンド客ならびに企業団体など、幅広い集客活動に努めました。

北海道の『北村温泉ホテル』におきましては、好調なネット予約を中心に宿泊部門を伸ばしたほか、ステーキセット、北村ラーメン、居酒屋メニューなどの飲食メニューの強化により、レストラン部門の売上増大にも注力いたしました。

また、和室用の椅子・テーブルセットの導入により、より快適な会場利用をPRし、高齢層を中心に宴会獲得を図りました。

以上のような取り組みの結果、宿泊者数は堅調に推移し、『ホテルサンブラザ』ならびに『北村温泉ホテル』の宿泊者数は前期比1,099人増加の24,599人となり、売上高は前期比30,709千円増加の640,018千円となりました。

以上の結果、宿泊者数は前期比2,835人減少の92,088人となり、売上高は前期比19,189千円減少の2,013,911千円、セグメント利益は前期比7,411千円減少の25,843千円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、九州のグリーンランドリゾート一帯の賃貸事業を中心に堅調に推移いたしました。売上高は前期比2,047千円増加の158,061千円となり、セグメント利益につきましては、前期比2,274千円増加の120,978千円となりました。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、新たに運送業務受託を開始し、バイオマス火力発電所への燃料投入業務の受託が堅調だったことに加え、土木工事受注ならびに客土用土の販売が好調に推移したため、ポゾテックの製造量は落ち込んだものの、売上高は前期比58,375千円増加の553,902千円となり、セグメント利益は前期比7,983千円増加の89,783千円となりました。

(注) セグメント利益は連結財務諸表の営業利益と調整を行っており、上記すべてのセグメント利益合計1,017,452千円より、各報告セグメントに配賦していない一般管理費を含む332,995千円を差し引いた684,457千円が当連結会計年度の営業利益となります。

2)次期の見通し

当社グループを取り巻く環境は、ますます多様化する顧客ニーズに加え、度重なる厳しい自然災害の発生や目まぐるしく変動する海外情勢など、今後のレジャー消費動向の見通しをつけにくい状況となっております。

当社グループといたしましては、これらの変化に迅速に対応すべく、スタッフ全員が五感を研ぎ澄まし、常に新たな取り組みに挑戦してまいります。

各セグメントにおける具体的施策は次のとおりです。

(遊園地事業)

九州の『グリーンランド』におきましては、まずは1月に冬季イルミネーションイベント「ワンダーイルミネーション」を開催し、100カ所以上の色鮮やかなイルミネーションスポットに加え、新たに「オーロライリュージョン」を展開し、間近で見るオーロラ演出で、多くのお客様を魅了いたしました。

春のイベントにつきましては、3月14日(土)から3大イベントを開催いたします。まず一つは、大人から子どもまで幅広い人気を誇る「クレヨンしんちゃん」の最新作映画をテーマとした「クレヨンしんちゃんワールド ラクガキングダムとワクワク!グリーンランドだぞ!」を開催いたします。映画のメインテーマである「ラクガキ」を思いっきり楽しめるラクガキコーナーや、フォトスポット、そしてたくさんのアトラクションエリアなど、ワクワク楽しい遊びが満載のイベントとなっております。

また、もう一つは、「仮面ライダーゼロワン バトルステージ」と題し、令和最初の仮面ライダーとして人気の高い「仮面ライダーゼロワン」を主役として、迫力満点のライブアクションショーを開催いたします。日本最大級となる全長70メートルの屋外ステージ「グリーンスタジアム」を舞台に、更にスケールアップした約250インチの巨大LEDスクリーンによる映像演出や特殊効果により、これまで以上のスケール感を演出いたします。

さらに、話題急騰中のお笑い芸人「クロちゃん」の初の展覧会イベント「クロちゃんのモンスターパーク in グリーンランド」を開催いたします。テーマパークをモチーフとして、クロちゃんのキャラクターが縦横無尽に炸裂するドキドキ!ビクビク!の展覧会で、クロちゃん本人によるオリジナルアイドルソングや、クロちゃんと密室で2人きりになってしまうVR鑑賞など、思わず絶叫したくなる仕掛けが満載です。

そのほか、恒例の春の花火大会「HANABI フェスティバル」に加え、春休み期間においても、イルミネーションイベント「夜桜 ワンダーイルミネーション」を開催するなど、新たな集客の取り組みも実施いたします。

アトラクションにおいては、宇宙をテーマに、不思議で幻想的な体験が出来る日本初登場のアトラクション「コズミックメイズ」をゴールデンウィークに向けてオープンするほか、既存のアトラクションについても新たな光の演出を加えるなど、様々なリニューアルに取り組んでまいります。

『北海道グリーンランド遊園地』におきましては、春の遊園地オープンから、「仮面ライダーゼロワン」、「ヒーリングっど♥プリキュア」、「魔進戦隊キラメイジャー」など、男児女児それぞれに人気の高い最新キャラクターショーを開催いたします。

また、夏におきましても、子ども達に大人気のキャラクターショーを連日開催するほか、初めてとなる「移動動物園」を展開し、幅広い層の集客を図ります。

そのほか、園内を舞台とした「宝探しゲーム」や人気の高い「リアル脱出ゲーム」を開催するなど、遊園地のロケーションを最大限に活用したイベント実施にも注力いたします。また、恒例となりました大型コンサートイベント「JOIN ALIVE (ジョインアライブ)」につきましても、更に内容をパワーアップさせ、開催施設としてのブランドイメージの強化にも繋げてまいります。

『北海道グリーンランドホワイトパーク (スキー場)』におきましては、学校授業やインバウンド客ならびに自衛隊訓練の団体利用に加え、個人レッスンの積極的な受け入れにより、リピーターの獲得に注力いたします。

『いわみざわ公園管理』におきましては、引き続き指定管理者として適切な管理を行うとともに、花数を増やして魅力増大を図り、加えて初夏と秋の「ローズフェスタ」開催による集客拡大に努めてまいります。

(ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、コース整備や設備の拡充による顧客満足度の向上を取り組みの基本として、各ゴルフ場の立地や強みを活かした集客施策に注力いたします。

また、3ゴルフ場を持つスケールメリットを、集客のみならず、各種仕入れの合理化による費用削減にも最大限活用して、更なる収益拡大を図ります。

『グリーンランドリゾートゴルフコース』では、季節毎にテーマを持った特色あるゴルフコンペを定期的で開催することで、集客増加を図ります。

また、外部予約サイトとの差別化を打ち出し、自社予約サイト限定の商品プランを展開することで、予約拡大に努めるほか、友の会会員限定特典の強化により更なる会員獲得を行い、リピーターの拡大を図ります。

施設面においては、新たにバンカーの設置等を行い、コース戦略性を高めるとともに、一部のコースでレディス向けのティーイングエリアを新設し、更なる魅力増大を図ります。

『大牟田ゴルフ場』、『広川ゴルフ場』の両メンバーシップコースでは、会員限定のポイントシステムにより顧客満足度を向上させることで、更なる利用促進を図り、近隣ゴルフ場との差別化による新規会員獲得にも注力してまいります。

また、地元企業や各種団体との連携を強化し、コンペ獲得によるビジター客の確保にも努めてまいります。

(ホテル事業)

『ホテルブランカ』ならびに『ホテルヴェルデ』におきましては、遊園地をはじめとするグリーンランドリゾート全体のオフィシャルホテルとしての役割を存分に意識して、常に利用者に快適なサービスの提供を心掛けるとともに、料飲部門や宴会部門においても独自のブランド力を構築し、更なる収益基盤の強化を図ってまいります。

『ホテルブランカ』におきましては、遊園地やプール、ゴルフ場に隣接した立地を活かした宿泊プランを中心に顧客獲得を図るとともに、特に繁忙時における定員稼働率向上に注力し、更なる収益拡大を図ります。

施設面においては、屋上エリアの整備を進め、バーベキューやグランピングなど、新たな楽しみ方の幅を広げてまいります。

その他、好評な、遊園地を望むホテル中庭でのバーベキューや秋・冬の鍋料理について、その内容の充実とともにPR強化を実施し、更なるリピーター拡大を図ります。

『ホテルヴェルデ』におきましては、新たに「仮面ライダーゼロワン」ルームを設置したほか、遊園地やゴルフ場との各種セットプランを充実させることで、リゾートホテルとして幅広いターゲット層に訴求いたします。

また、各料飲店舗においては、新メニュー開発や季節毎のイベントを行うとともに、きめ細かな情報発信に努め、一層の利用拡大を図ってまいります。

設備面では、「レストランフォンターナ」におきまして、より多くのお客様が快適に食事をお楽しみ頂けるよう、ビュッフェ台を刷新いたします。

宴会部門におきましては、2月に開催して大好評を博しました、人気グループ「純烈」のバレンタインスペシャルディナーショーなど、魅力ある集客イベントの開催に注力するとともに、ホームページの大幅なリニューアルによるPR強化で、婚礼をはじめとする各種団体の獲得を図ります。

『ホテルサンプラザ』ならびに『北村温泉ホテル』におきましては、遊園地を中心とするリゾートホテルとしての役割を果たすと同時に、地域に密着したホテルとして、料飲部門や宴会部門の品質向上とブランド力の強化を推進し、収益基盤の安定化を図ってまいります。

『ホテルサンプラザ』におきましては、ファミリー層の着実な取り込みに加え、オリンピック競技の札幌開催を絶好の機会と捉え、様々な商品プラン設定や営業強化により、更なる顧客拡大を図ってまいります。

また、料飲メニューに変化を持たせることで、リピーターの拡大を図るとともに、宿泊客へのPR強化により喫食率の向上に努めてまいります。

『北村温泉ホテル』におきましては、学校や企業を対象とした合宿プランや研修プランを中心として団体獲得に注力いたします。

宴会におきましては、無料送迎バスや和室での椅子・テーブル宴会の快適性をPRし、顧客の拡大を図ってまいります。

また、指定管理者として運営管理しております当ホテルにつきましては、本年6月頃より大規模改修工事が計画されており、様々な設備拡充とともに新たなサービスの提供を最大のセールスポイントとして、万全の体制での営業再開に取り組んでまいります。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、遊園地を中心とするグリーンランドリゾートエリア全体の魅力増大に繋がるような、新たなテナント誘致に注力してまいります。

(土木・建設資材事業)

土木・建設資材事業におきましては、コールサンドやボゾテックなどの建設資材の販売に注力するとともに、火力発電所へのバイオマス燃料投入業務受託については、着実に実績を積み上げてまいります。

また、幅広い情報ネットワークを駆使し、土木工事受注を積極的に行い、更なる収益の拡大を図ります。

当社グループといたしましては、「ココロを『みどり』でいっぱい。」というキャッチコピーを掲げ、全てのお客様が喜びの笑顔になることはもちろん、スタッフ全員が楽しんで笑顔あふれる接客を行うことを目標に、日々の事業活動に取り組んでおります。これからも、様々な取り組みを積極的に行い、お客様に常に進化する当社グループの姿をお見せすることで、一層の顧客満足度の向上に努めてまいります。

通期の業績予想につきましては、売上高7,800百万円(前連結会計年度比△6.7%)、営業利益480百万円(前連結会計年度比△29.9%)、経常利益460百万円(前連結会計年度比△33.5%)、親会社株主に帰属する当期純利益280百万円(前連結会計年度比△27.6%)を見込んでおります。

(2) 財政状態に関する分析

1) 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、21,313,875千円(前連結会計年度比301,446千円減少)となりました。

流動資産は、724,893千円(前連結会計年度比56,291千円減少)となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が減少したことによるものであります。

固定資産は、20,588,981千円(前連結会計年度比245,154千円減少)となりました。これは主に、建物及び構築物、土地が減少したことによるものであります。

流動負債は、3,811,568千円(前連結会計年度比107,632千円減少)となりました。これは主に、未払法人税等が増加したものの、短期借入金が増加したことによるものであります。

固定負債は、6,222,489千円(前連結会計年度比453,349千円減少)となりました。これは主に、長期借入金、長期預り金が減少したことによるものであります。

純資産は、11,279,817千円(前連結会計年度比259,535千円増加)となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。

2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ29,624千円増加し、350,742千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、1,109,291千円となり、前年同期比281,313千円の増加となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が増加したこと及び売上債権が減少したことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、321,955千円となり、前年同期比79,708千円の減少となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出及び無形固定資産の取得による支出が減少したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、757,711千円となり、前年同期比363,414千円の増加となりました。これは主に、長期借入による収入が減少したことによるものであります。

項目	当連結会計年度 (千円)	前連結会計年度 (千円)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,109,291	827,977	281,313
投資活動によるキャッシュ・フロー	△321,955	△401,664	79,708
財務活動によるキャッシュ・フロー	△757,711	△394,296	△363,414

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社では、利益配分につきまして、株主に対する利益還元を経営の重要政策の一つとして位置付け、安定的な剰余金の配当に配慮するとともに、連結業績ならびに今後の事業展開等を勘案した適正な配当を実施することを基本方針としております。

内部留保金の使途につきましては、経営体質の一層の充実、ならびに将来の事業展開に役立ててまいりたいと存じます。以上の方針に基づき、当期の期末配当金につきましては、1株につき7円となる予定であり、中間配当金7円を含めると年間配当金は1株につき14円となる予定であります。

また、次期の配当金につきましては、1株につき中間配当金を5円、期末配当金を6円の年間配当金11円を予定しております。

2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社3社ならびにその他の関係会社1社で構成されており、遊園地・ゴルフ・ホテルのレジャー事業を主な内容とし、不動産事業については、不動産の売買・賃貸を行い、土木・建設資材事業として土木工事受注のほか、建設資材の製造・販売・運搬等を行い、また、その他事業として都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。

当社グループの事業内容及び当社と関係会社の当該事業に係る位置付けならびに事業の種類別セグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、事業区分は事業の種類別セグメントと同一であります。

また、西部瓦斯株式会社につきましては、間接所有を含め当社の発行済株式数の24.38%を所有しており、当社は同社の持分法適用の関連会社であります。

<遊園地事業>

グリーンランド（九州）	当社が当遊園地を経営しており、有明リゾートシティ株式会社が園内飲食店の内2店舗、園内売店の内5店舗を、当社より受託して運営しております。 また、グリーンランド開発株式会社が園内飲食店の内6店舗、園内売店の内2店舗、園内施設のうち2施設の運営及び園内清掃をはじめとする園内管理業務を当社より受託しております。
北海道グリーンランド遊園地（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当遊園地を経営しております。
北海道グリーンランドホワイトパーク（スキー場）（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が当スキー場を経営しております。
いわみざわ公園（北海道）	空知リゾートシティ株式会社が岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、いわみざわ公園の運営管理業務を行っております。

<ゴルフ事業>

グリーンランドリゾートゴルフコース	当社が当ゴルフ場を経営しております。
有明カントリークラブ大牟田ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。
久留米カントリークラブ広川ゴルフ場	当社が当ゴルフ場を経営しております。

<ホテル事業>

グリーンランドリゾートオフィシャルホテルブランカ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
グリーンランドリゾートオフィシャルホテルヴェルデ	有明リゾートシティ株式会社が当ホテルを経営しております。
北海道グリーンランドホテルサンブラザ及び北村温泉ホテル	空知リゾートシティ株式会社がホテルサンブラザを経営しております。また同社は、岩見沢市より指定管理者としての指名を受け、北村温泉ホテルの運営管理業務を行っております。
生損保保険代理店業務等	有明リゾートシティ株式会社が生損保保険代理店業務等の営業業務を行っております。

<不動産事業>

不動産	当社が不動産の売買・賃貸を行っております。
-----	-----------------------

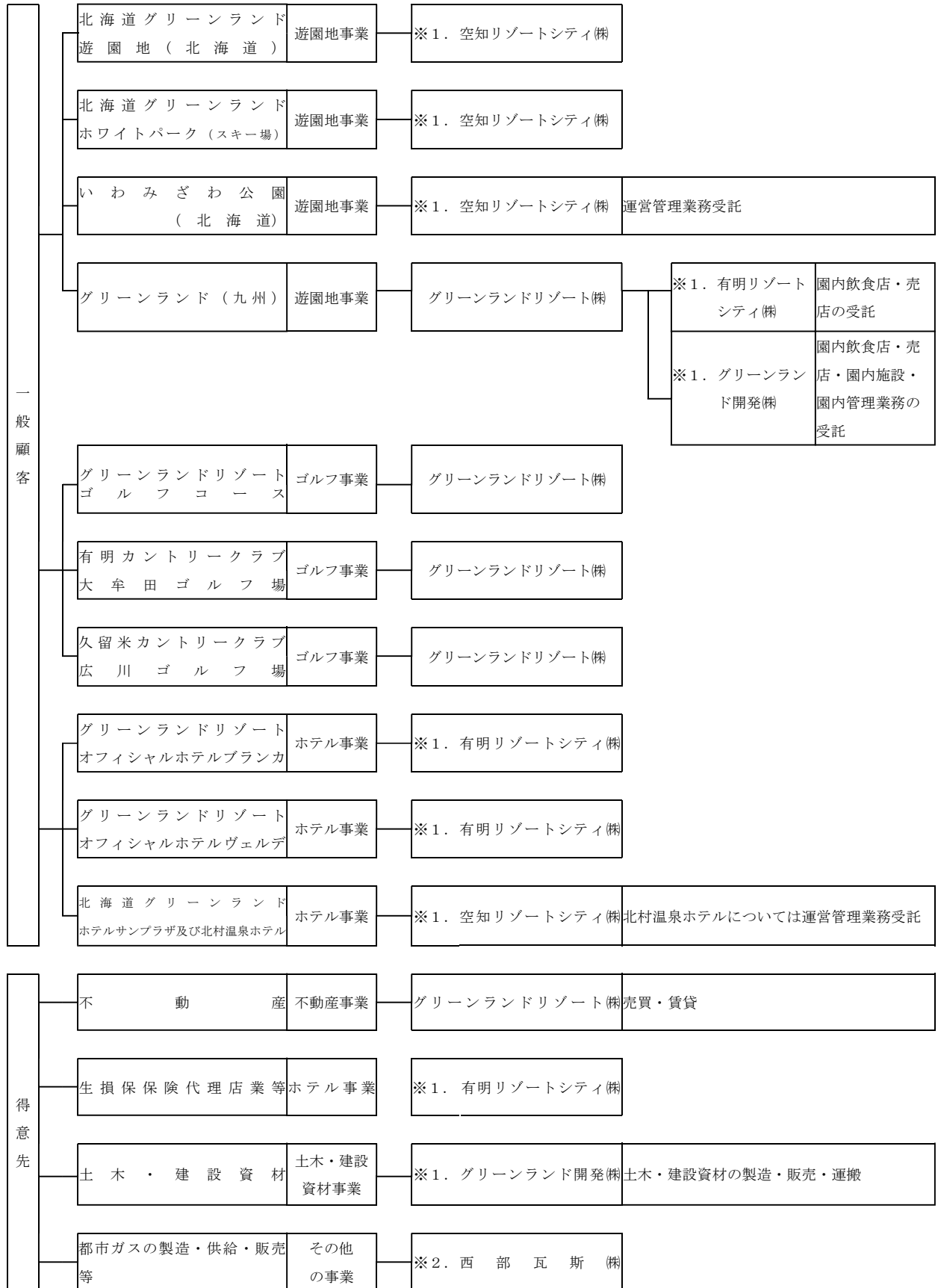
<土木・建設資材事業>

建設資材の製造・販売・運搬事業	グリーンランド開発株式会社が土木工事受注のほか、建設資材を製造・販売・運搬しております。
-----------------	--

<その他の事業>

都市ガスの製造・供給・販売等	西部瓦斯株式会社が都市ガスの製造・供給・販売等を行っております。
----------------	----------------------------------

上記の当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



(注) ※1. 連結子会社

※2. その他の関係会社

3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、国際的な事業展開や資金調達を行っておりませんので、会計基準につきましては日本基準を適用しております。

4. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	321,118	350,742
受取手形及び売掛金	274,878	207,356
商品及び製品	72,012	51,317
原材料及び貯蔵品	49,849	54,003
販売用不動産	7,130	-
その他	60,276	64,924
貸倒引当金	△4,080	△3,451
流動資産合計	781,185	724,893
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	13,857,739	13,940,856
減価償却累計額	△9,874,513	△10,089,890
建物及び構築物 (純額)	3,983,225	3,850,966
機械装置及び運搬具	3,756,444	3,775,414
減価償却累計額	△3,155,306	△3,197,982
機械装置及び運搬具 (純額)	601,137	577,432
土地	14,990,850	14,929,214
リース資産	97,654	65,484
減価償却累計額	△58,903	△37,489
リース資産 (純額)	38,751	27,994
建設仮勘定	13,827	-
その他	1,205,379	1,252,704
減価償却累計額	△1,040,741	△1,079,188
その他 (純額)	164,638	173,515
有形固定資産合計	19,792,431	19,559,123
無形固定資産		
その他	246,236	244,678
無形固定資産合計	246,236	244,678
投資その他の資産		
投資有価証券	276,166	298,315
繰延税金資産	308,524	262,577
退職給付に係る資産	149,348	166,776
その他	62,529	58,610
貸倒引当金	△1,100	△1,100
投資その他の資産合計	795,468	785,179
固定資産合計	20,834,135	20,588,981
資産合計	21,615,321	21,313,875

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	79,757	86,526
営業未払金	125,453	127,494
短期借入金	3,068,590	2,891,190
リース債務	7,789	2,543
未払金	387,519	397,694
未払法人税等	118,300	163,263
その他	131,789	142,857
流動負債合計	3,919,200	3,811,568
固定負債		
長期借入金	3,777,971	3,449,694
長期預り金	2,725,842	2,626,402
リース債務	2,947	403
繰延税金負債	38,544	4,862
退職給付に係る負債	7,953	9,086
その他	122,580	132,041
固定負債合計	6,675,839	6,222,489
負債合計	10,595,040	10,034,058
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,180,101	4,180,101
資本剰余金	4,767,834	4,767,834
利益剰余金	2,041,590	2,283,838
自己株式	△3,033	△3,036
株主資本合計	10,986,492	11,228,737
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,788	51,079
その他の包括利益累計額合計	33,788	51,079
純資産合計	11,020,281	11,279,817
負債純資産合計	21,615,321	21,313,875

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上高	7,810,527	8,359,645
売上原価	6,671,397	7,084,733
売上総利益	1,139,130	1,274,911
販売費及び一般管理費	574,338	590,453
営業利益	564,791	684,457
営業外収益		
受取利息	1	13
受取配当金	8,563	9,638
受取賃貸料	4,637	4,561
受取保険金	5,574	28,718
雑収入	11,450	7,213
営業外収益合計	30,228	50,145
営業外費用		
支払利息	45,727	41,882
雑損失	1,283	1,163
営業外費用合計	47,010	43,046
経常利益	548,009	691,557
特別利益		
固定資産売却益	49	6,823
受取保険金	22,912	-
投資有価証券売却益	-	5,271
特別利益合計	22,962	12,094
特別損失		
固定資産除売却損	5,737	21,023
減損損失	59,883	74,272
災害による損失	13,462	-
特別損失合計	79,083	95,295
税金等調整前当期純利益	491,887	608,356
法人税、住民税及び事業税	171,992	216,804
法人税等調整額	18,323	4,579
法人税等合計	190,315	221,384
当期純利益	301,572	386,972
親会社株主に帰属する当期純利益	301,572	386,972

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
当期純利益	301,572	386,972
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△71,136	17,290
その他の包括利益合計	△71,136	17,290
包括利益	230,436	404,262
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	230,436	404,262
非支配株主に係る包括利益	-	-

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自2018年1月1日 至2018年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	1,853,729	△3,033	10,798,631
当期変動額					
剰余金の配当			△113,711		△113,711
親会社株主に帰属する当期純利益			301,572		301,572
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	187,860	—	187,860
当期末残高	4,180,101	4,767,834	2,041,590	△3,033	10,986,492

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	104,925	104,925	10,903,556
当期変動額			
剰余金の配当			△113,711
親会社株主に帰属する当期純利益			301,572
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△71,136	△71,136	△71,136
当期変動額合計	△71,136	△71,136	116,724
当期末残高	33,788	33,788	11,020,281

当連結会計年度 (自2019年1月1日 至2019年12月31日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,180,101	4,767,834	2,041,590	△3,033	10,986,492
当期変動額					
剰余金の配当			△144,723		△144,723
親会社株主に帰属する当期純利益			386,972		386,972
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				△3	△3
当期変動額合計	-	-	242,248	△3	242,245
当期末残高	4,180,101	4,767,834	2,283,838	△3,036	11,228,737

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
当期首残高	33,788	33,788	11,020,281
当期変動額			
剰余金の配当			△144,723
親会社株主に帰属する当期純利益			386,972
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	17,290	17,290	17,287
当期変動額合計	17,290	17,290	259,535
当期末残高	51,079	51,079	11,279,817

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	491,887	608,356
減価償却費	441,504	469,438
減損損失	59,883	74,272
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△27,469	△17,428
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,717	1,132
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	427	△629
受取利息及び受取配当金	△8,565	△9,652
支払利息	45,864	41,882
受取保険金	△22,912	△28,718
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△5,271
固定資産売却損益 (△は益)	△49	△6,823
固定資産除売却損益 (△は益)	5,737	21,023
売上債権の増減額 (△は増加)	△39,591	75,398
たな卸資産の増減額 (△は増加)	37,474	16,539
仕入債務の増減額 (△は減少)	16,697	8,809
未払金の増減額 (△は減少)	23,257	7,736
未払消費税等の増減額 (△は減少)	9,434	16,683
その他	2,708	15,324
小計	1,038,005	1,288,075
利息及び配当金の受取額	8,565	9,652
利息の支払額	△45,799	△42,008
保険金の受取額	22,912	28,718
法人税等の支払額	△196,980	△175,146
法人税等の還付額	1,275	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	827,977	1,109,291
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△374,938	△326,381
有形固定資産の売却による収入	50	11,631
無形固定資産の取得による支出	△21,987	△9,014
投資有価証券の取得による支出	△4,800	-
投資有価証券の売却による収入	2	8,097
その他	10	△6,289
投資活動によるキャッシュ・フロー	△401,664	△321,955
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△94,500	△128,000
長期借入れによる収入	1,442,000	950,000
長期借入金の返済による支出	△1,424,185	△1,327,677
社債の償還による支出	△100,000	-
長期預り金の受入による収入	7,200	6,600
長期預り金の返還による支出	△99,600	△106,040
リース債務の返済による支出	△11,572	△7,789
自己株式の取得による支出	-	△3
配当金の支払額	△113,639	△144,801
財務活動によるキャッシュ・フロー	△394,296	△757,711
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	32,016	29,624
現金及び現金同等物の期首残高	289,102	321,118
現金及び現金同等物の期末残高	321,118	350,742

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、遊園地やホテル等の経営及び運営等を主な事業としていることから、サービス別に報告セグメントを、「遊園地事業」、「ゴルフ事業」、「ホテル事業」、「不動産事業」、「土木・建設資材事業」として識別しております。

遊園地事業	: 遊園地・スキー場等の経営、運営
ゴルフ事業	: ゴルフ場の経営、運営
ホテル事業	: ホテルの経営、運営
不動産事業	: 不動産の賃貸、売買
土木・建設資材事業	: 建設資材の製造、販売、運搬

2. 報告セグメントごとの売上高、利益、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの損益は、営業損益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1、2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,158,127	967,758	2,033,101	156,013	495,526	7,810,527	—	7,810,527
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,894	11,289	23,042	27,504	16,827	83,558	△83,558	—
計	4,163,021	979,048	2,056,144	183,518	512,353	7,894,086	△83,558	7,810,527
セグメント利益	619,077	21,065	33,254	118,704	81,799	873,901	△309,109	564,791

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△310,770千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1、2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	遊園地事業	ゴルフ事業	ホテル事業	不動産事業	土木・ 建設資材 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	4,638,894	994,876	2,013,911	158,061	553,902	8,359,645	—	8,359,645
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8,658	11,800	23,146	27,741	35,091	106,438	△106,438	—
計	4,647,552	1,006,676	2,037,058	185,802	588,993	8,466,083	△106,438	8,359,645
セグメント利益	738,983	41,864	25,843	120,978	89,783	1,017,452	△332,995	684,457

- (注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△327,739千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり純資産	1,066.06円	1,091.16円
1株当たり当期純利益	29.17円	37.43円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	301,572	386,972
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	301,572	386,972
期中平均株式数(千株)	10,337	10,337

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

5. その他

役員の変動

1. 代表者の変動

該当事項はありません。

2. その他の役員の変動

(1) 新任取締役候補

取締役 上野 豊徳 (現 肥銀リース株式会社 代表取締役社長)

※上野豊徳氏は、社外取締役候補であります。

(2) 退任予定取締役

取締役 山木 仁 (現 当社社外取締役、株式会社肥後銀行 代表取締役副頭取)

3. 就退任予定日

2020年3月27日

(ご参考)

新任取締役候補の略歴

上野豊徳(ウエノ トヨノリ) 1953年2月11日生 67歳

1976年	4月	株式会社肥後銀行入行
2007年	6月	同行理事水道町支店長
2008年	6月	同行執行役員水道町支店長
2009年	6月	同行取締役監査部長
2010年	6月	同行取締役執行役員監査部長
2011年	4月	同行取締役常務執行役員
2013年	3月	当社取締役(社外取締役)
2013年	6月	株式会社肥後銀行代表取締役専務執行役員
2015年	6月	同行常任監査役(常勤)
2016年	6月	肥銀リース株式会社代表取締役社長(現任)